公民館報
発行 2024 3/30

まつもと

松本市広報R5-37
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 66

日本の邪気払いの伝統行事

節分会（せつぶんえ）の豆まき

一年のしあわせを願い
「鬼は外、福は内」と厄除け

（撮影 2024.2.3 深志神社）

工夫を続けるまちづくり

2月18日中央公民館で、未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い～第39回公民館研究集会・令和5年度地域づくり市民活動研究集会～が開催され、延べ250名の参加がありました

詳細はこちらから

基調講演

東京大学大学院教育学研究科牧野篤教授より、**「ふるさと」をつくる公民館ー松本市町内公民館調査からみる公民館の新たな可能性ー**と題し、これからの社会教育の基盤施設「公民館」について、お話がありました。

健康長寿社会を迎えた今、**高齢者に適応した社会に転換する必要**と、**次世代の担い手育成**という課題があります。

「誰もが主役、誰もが担い手」と話す牧野先生

多世代参画型地域共生コミュニティの構築を目指す松本市は、地域づくりや地域おこしに精通している牧野教授の研究室と共に研究を進めていました。

牧野先生の研究室は2018年、市内20地区を訪問、56町会をヒアリング。翌年行われた旧市・新市・山間部代表町会とのワークショップ結果が紹介されました。

鷹匠町（たかじょうまち）町会（中央地区）

三世代交流会など、子どもを中心に活動。町会長を中心にしたトップダウン形式ですが、下からの要望が出てくる良い関係。さらに住民全体を巻き込むシステムづくりへ。

新井町会（里山辺地区）

新しく転入されて来た住民を巻き込んだ町会運営を模索しています。子ども中心の行事を活用して交流を盛んにし、共に作り上げる町会へ。

橋場町会（安曇地区）

子どもはいませんが、若い移住者が積極的に参加。町会を超えたつながりの模索から、地区全体でのまちづくりの可能性が見えてきます。地縁組織から有志団体へ。

地域活動が活発な町会は地域的な伝統などの基盤があります。昭和以前の社会は**「じじばばから孫」**でつながってきました。核家族が主な現在、**「地域のじじばばから地域の孫」**につなぐ時代です。

分科会では

第4分科会を紹介します。「つながる・つなげる、松本らしい〝集いの場〟」をテーマに3つの町会から地域づくりの事例が発表されました。

神林地区　出張サロン

地域づくりセンター職員等が各町会に出張することで、移動手段のない人もサロンへ参加できるようになりました。キッチンカーや移動販売車で買い物のサポートも行います。

町会公民館に来た移動販売車でお買い物（2023年9月28日）

寿地区　小池町会子ども広場

毎月1回最終週の土曜日に、地域の小学生を対象に、生活体験を重視して、自由学習、会食を行います。これらを地区公民館ではなく町会で行っています。

第三地区四ツ谷東町会　防災と福祉の取り組み

避難訓練の参加者減少により見直しがはじまりました。平成29年から安否確認訓練を続けることで「これを継続すべき」と住民から声が上がるようになりました。令和2年から安否確認タオルを全世帯に配布、訓練継続中です。

四ツ谷東町会は安否タオルの導入で訓練の時短実現

おこひる

5年程前、それまで住んでいた団地から転居した。転居先は、亡くなった祖父母が住んでいた築30年以上の空き家で、50年以上前に私自身も3歳まで住んでいた場所だ▼そのままでは、とても生活できそうもなかったので、リビングや水回りを中心にリノベーションすることにした。内外装はイメージしたとおりきれいになったが、古い家なので夏は暑く、冬は寒い。エアコンと石油ファンヒーターが頼りである。暑かった昨年の夏もエアコンを一台増設した▼住宅街などと違い夜になると暗いので、ソーラーライトをいくつも購入して設置した。その甲斐あって、夜でも明るくなったが、夏は虫が多くて厄介だ▼名所旧跡があり、山があり、川が流れ、鳥が鳴いて自然が豊かなところだ。特段自然に興味があるわけではないが、気にするようになった▼いま一番の困りごとは、この地区に住んでいる人の名前や家がわからないことだ。このことは、少しずつ覚えていくしかない。すぐに解決できないので、あせらずにゆっくりとやっていこう。

視点

⑮橋本さんと自薦ヘルパーの大学生 共に生きる

動画はこちらから!

一人暮らしと大学生

橋本和子さんは、重度の身体障がいを抱えながら一人暮らしを30年続けています。当初の生活は信州大学の学生ボランティア3人と始まり、これまで５００人以上の高校生・大学生・社会人と関わってきました。現在では三才山で人と自然に囲まれた生活を送っています。

橋本さんに教わり、高校生がうどんを打つ様子

居心地のよい場所

学生に頼んで畑で旬の野菜をつくり、野沢菜を漬け、買い物に出かける橋本さんの生活はのびのびとしています。介助者として橋本さんの家に通う信州大学2年の松原慧太朗（まつばらけいたろう）さんは「ヘルパーに来ているというより友だちの家にいるような感じ」と語ります。松原さんにとって橋本さんの家はいつしか居場所になり、大学では出会えなかったたくさんの人々と話すことができたのだといいます。

新しい介護の形

橋本さんは去年から「自薦ヘルパー」という派遣方式を利用しています。この制度によって利用者は募集から採用までを自ら行い、自分専任のヘルパーを依頼することができます。一般のヘルパーと比べて自由度の高い訪問介護が可能になることも特徴です。

お互いの意思を確認し合いながら介助を進めることができるメリットがある一方で、いまだ「自薦ヘルパー」の知名度は低く、利用者も少ない現状があります。

信州大学1年の岡田実桜（おかだみお）さんは「導入した自薦ヘルパーの制度について、試行錯誤しながらみんなと計画や体制づくりに関わっていきたい。介助者の一員として、もっと橋本さんの生活を支えられるようになりたい」とこれからの展望を語ります。

介助者と被介助者を越えた人と人との付き合いとして橋本さんと学生たちは共に生活で繋がっています。

外出支援で美鈴湖へ

自薦ヘルパーについて

わがまち自慢 芳川地区

ようこそ野溝町会へ

芳川地区野溝町会で昨年12月3日、新しい町会加入者を対象に「野溝交流会」が開催されました。これは町会への理解と親睦を深めることや、コロナ禍で疎遠になっていたことの解消も兼ねて行われたものです。

町会の中谷交流部長は「新規入居者は、比較的若い世帯が多いため、子ども中心の催しをすれば良いのでは?」と交流会を企画しました。

声掛けをした58軒中、16軒（大人21人、子ども29人）の参加がありました。

交流会第一部は「親子で作ろう、クリスマス・スノードーム」第二部は大人は芳川公民館長による野溝の話、子どもは辰野町在住の篠原忍先生の指導で、新聞紙を使って身体を動かす遊びで盛り上がりました。第三部は全員で茶話会をして終了しました。

子ども盛り上がる

これからよろしくね

交流会の感想は「子どもとの工作が楽しかった」「スノードームが上手く出来て嬉しかった」「公民館長の話が面白かった」など楽しい交流会になった様子でした。

田中野溝町会長は「町会への加入率が95％と比較的高いのは、交流会やお茶会など様々な住民参加の場があることや、公民館を自由に使っていただけているからだと思います」との話でした。

再発見!!

まつもと地名がたり ④

「城下の町づくり」から生まれた　安原地区

あさばの（はら）と呼ばれたこの地に善光寺街道が通り、松本城の町づくりにより安原の町が生まれました

南北に長い安原地区の南側は、「総堀」と「北門大井戸」に接しています。江戸時代初めお城の武家の住宅地として、またその北側に町人の町が形成されました。

城外に中級武士向けの町が

16世紀の戦国時代の終わりの頃、武田氏滅亡後に小笠原氏が再び支配し、深志城は松本城に改め、城地の町割りを行いました。その後、石川氏により天守を持つ城郭が建立し、続いて目まぐるしく変わった何代かの藩主によっても城下町づくりが行われ、安原の町まちが作られます。

中級武士の屋敷を2町造りました。新町と田町（城北地区）です。**新町**の北側に侍屋敷が以前からもあり、最も新しい町という意味でつけられたともいわれます。**袋町**は、計画的に造った武家屋敷地には、出入りの口が一つ、敵を惑わす袋小路です。今は通り抜けもでき、「鉤の手」クランク構造の道を散歩できます。

町人の町

安原町として町の名は4世紀以上引き継がれています。善光寺街道筋の町人町で商家と職人の町でした。善光寺街道は、本町から安原を経由し岡田宿に続きます。

下級武士の町も設けられ

善光寺街道に面し、旅人が通るので目隠しのために、萩を植えたのが**萩町**の名の由来とされています。

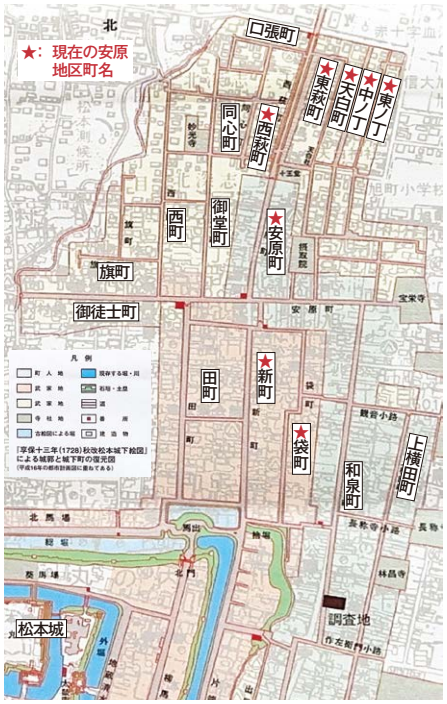
令和5年に「天白三（てんぱくさん）」町会が生まれました。その名は、天白神社にちなんだ**天白町**、一番東にあるので**東ノ丁**、二つの町の中の町で**中ノ丁**、この三町会は400年を経て一つの新しい町会となりました。

安原地区 北側の発展は

明治以降に花開きます。歩兵第50連隊の跡地には信州大学と信大附属病院が開設され一躍松本の文教地区に姿を変えました。現在、安原地区で面積・人口・世帯数が最も大きな地域です。

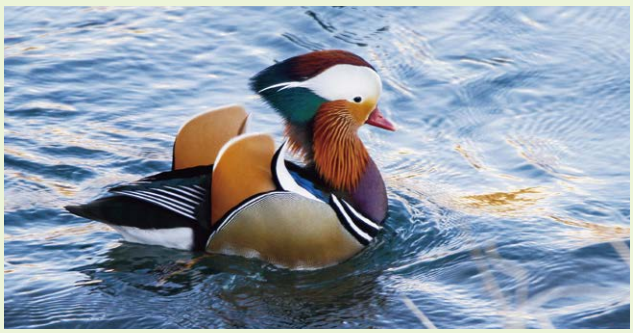
※続きは、左の二次元バーコードより安原地区歴史研究会の資料をご覧ください。

安原地区の地図
歴史・史跡・地名の由来はこちらから



『享保13年(1728)秋改松本城下絵図』による城郭と城下町の復元図（H16年都市計に重ねて）

松本平の野鳥たち



オシドリ　（2016年12月松本市島内奈良井川　写真提供：信州野鳥の会）

カルガモよりやや小さく、オスは日本一カラフルな水鳥。渓流、湖沼などに生息。木陰を好み、開けた水面にはあまり出て来ない。本来は冬鳥、しかし、上高地周辺では年中見ることができる。仲の良い夫婦を「おしどり夫婦」と呼ぶが、冬ごとに毎年パートナーを変えることが判明している。産卵後の子育ては一切メスが行う。

まつもと散歩

うららかな日に
春を待つしあわせ
明日はどんな花が咲く?

（撮影：2024.2.17 庄内公園）